

# 教職員のおすすめ本

## 自然から人を知る、小説から青森を知る

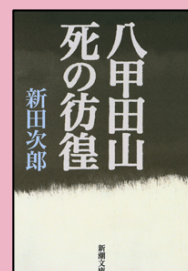
津軽平野に生まれ、毎年地吹雪にさらされながら育ってきた私ですが、今年の雪にはさすがに心が折れそうでした。全く止む気配もない猛吹雪の中、私はこの一冊を思い出しては、当時もこんな天気だったのかなと想像していました。

この本は、日露戦争を控えた明治 35 年の青森、冬の寒さに慣れたロシア軍に対抗できるよう、陸軍が八甲田山を雪中行軍するという過酷な訓練をおこない、結果参加者 210 名中 199 名が死亡するという実話をもとに書かれたものです。この事件は、近代の登山史において世界最大級の山岳遭難事故となっています。小説の中では、自然の恐ろしさがかなりリアルに表現されており、まるで自分も一緒に雪山を登っているかのような感覚に陥ります。（そして本当に寒くなります。）また、過酷な環境下での人間の弱さや醜さが生々しく書かれており、現代の私たちにも非常に多くの教訓を与えてくれる一冊だと思います。少し古い小説ですが、ドキドキハラハラが止まらず、ご飯を食べるのを忘れるくらい、一気に読み終えてしまった記憶があります。

本を読むと八甲田は怖いといった印象を持つかもしれませんが、実際の八甲田は四季を感じられる自然いっぱいの美しい所です。青森県で生まれ育った方も、県外からいらした方も、ぜひ、この本をきっかけに青森のことをもっともっと知ってほしいと思います。

## 看護学科助手

イチノヘ セイラ  
**一戸 聖羅**



### 『八甲田山死の彷徨』

新田次郎

新潮文庫

新潮社

913.6||N88

